

## 音が「意味」するものとは 9

## 『日本語を数学的にアレレンジしたら』

文 光吉俊二

text by Shunji Mitsuoyoshi

**日** 本語には、他の言語には存在しない素晴らしいところとそれ故の弱点がある。

日本語は主語を必要としないで成立する世界でも稀有のコミュニケーション手段である。主語がないので自己主張がなく、最初から調和合意を前提とし、対立を生まない。全世界が日本語を話すようになれば戦争は起こらないだろう。

しかし、「集団化(ムラ)」を静かに強要しつつも、ムラに疑問を抱くような論理思考も生まれないので、情緒でしか判断できなくなる弱点を持つ。それは為政者にとって最も都合がよいといえる。とはいっても、この情緒こそ日本文化の真髄で、四季折々の自然の移ろいの中に自らの感情を投影して詩に表す。わずかに17音のなかに季節と感慨を表現できるのも、自然と調和して生きるところから生まれる日本人の情緒であろう。

ところで、最近の政治への関わりだが、論理思考の教育をされていない日本民族は、ただ「がんばっている」と

いう理由で、政党に関係なく議員個人を応援する。

しかし、本当に問題なのは「何に頑張っている」かだが、論理思考出来ないから理解出来ないのが日本語民族の一般的な特徴である。

支持しない政党であっても頑張っている議員だから、応援するというのが実態でしょう。会ったことがあるという理由で投票するというケースすらある。

前回の衆議院議員選挙後の政治の意味を考えるなら、この行動はない。

「日本主権を外国に移譲する」と堂々と主張する異様な政党もあり、第三極にはそれに賛同する政党は多い。

実は、完璧な世界統一言語とは、数学である。あのバベルの塔ができる時代より以前からそうだった。

数学は日本語のように主語が存在しない。正確に言えば、主語にあたるAⅡでも、言語のような(自分)としての主語ではなく客観的なAだから、日本語同様に対立を生まない。

しかし、日本語にない論理を兼ね備

えているのだ。

だから、日本語を数学的にアレレンジしたら、日本人は完全体となると昔から私は考えていた。

新しい新天地で伸び伸びと新しい日本民族に必要な論理性で、再生した新日本語で、新しい哲学のもと、社会主義や資本主義を超越した心主義(人本主義)の新日本民族を創ろうかなと、最近の衆愚民主主義末期状態の第三極の様相を見て感じている。

## Profile

日本の情報工学者であり彫刻家。北海道札幌市出身。多摩美術大学美術学部彫刻科卒業。徳島大学大学院工学研究科博士後期課程修了、現在、博士(工学)。元スタンフォード大学バイオロボティクス研究所 Visiting Scientist (客員科学者)。現在、東京大学非常勤講師、株式会社AGI代表取締役である。専門は、ST (Sensibility Technology) 感性制御技術・VER 音声感情認識技術、音声脳神経分析技術。

